

総合的な学習の時間における自己評価力を伸ばすための 「ワークシート」の利用の研究

高校教育研究会議

家亀 照夫¹

寒河江 隆²

杉原 利雅³

樋口 朗⁴

要 約

高等学校においては平成 15 年度から「総合的な学習の時間」が実施され、各校において特色ある授業の展開が試みられている。特に、自己の生き方について考え『生きる力』を身に付けていく総合的な学習の時間では、生徒自身が自らの学習過程を見つめ、成長するための振り返りが大切である。そこで自己評価力を伸ばすための「ワークシート」の作成と利用の研究を行った。川崎市立高等学校の 3 校において実践した結果、ワークシートの利用と教師の適切なコメントの支援によって、活動の感想の記述にとどまっていたレベルから、学習活動や方法を振り返り次の課題に生かそうするレベルに自己評価力の向上が見られた。生徒が継続してワークシートに次時の課題を設定し記述する方策は、生徒の自己評価力を伸ばすための一方策として有効であることがわかった。

キーワード：総合的な学習の時間、自己評価力、ワークシート、支援

目 次

主題設定の理由	144	(1) A 高校の実践	148
1 学習指導要領から	144	(2) B 高校の実践	151
2 川崎市総合教育センターの研究から	144	(3) C 高校の実践	154
3 生徒の実態から	145	4 授業実践の考察	157
研究の内容	145	(1) A 高校	157
1 研究の仮説	145	(2) B 高校	157
2 研究の方法	145	(3) C 高校	157
(1) 自己評価力の定義	145	研究のまとめ	157
(2) ワークシートの作成とねらい	146	1 研究を通して見えてきたこと	157
(3) 自己評価力の分析	146	2 今後の課題	158
(4) 検証の方法	147	参考文献	158
3 授業実践	148	指導助言者	158

¹川崎市立高津高等学校教諭(長期研修員)

²川崎市立川崎高等学校教諭(研修員)

³川崎市立商業高等学校教諭(研修員)

⁴川崎市立川崎総合科学高等学校教諭(研修員)

主題設定の理由

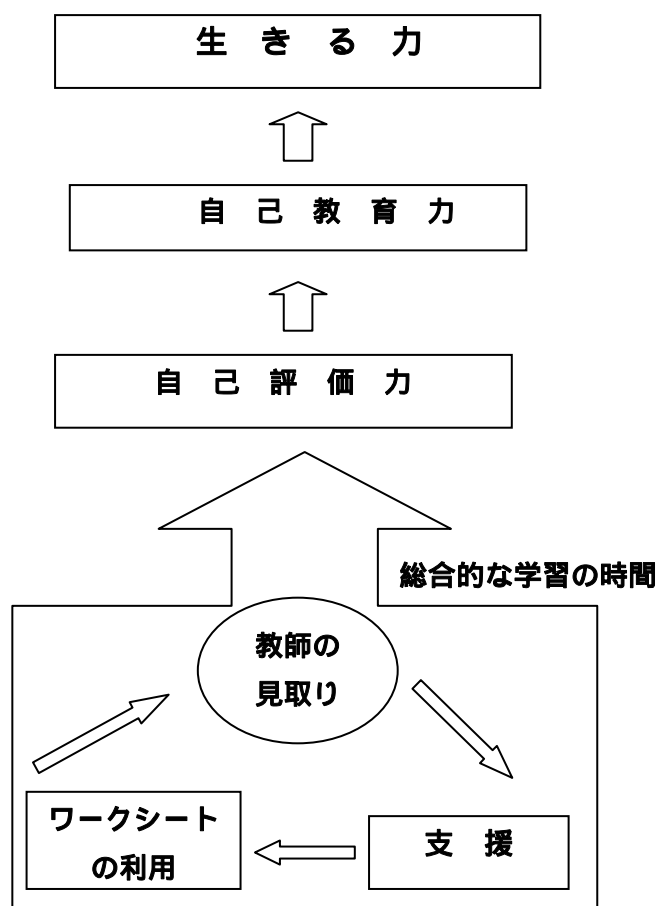
1 学習指導要領から

高等学校では、「ゆとりの中で特色ある教育の展開」と「生きる力の育成を図る」ことを基本的なねらいとした現行の学習指導要領が平成 15 年度から実施され、総合的な学習の時間は現在 2 年目を迎えている。この間、文部科学省は平成 15 年 12 月「小学校、中学校、高等学校の学習指導要領の一部改正等について(通知)」を告示した。総合的な学習の時間に関連した改正では、「各学校においては、学校における全教育活動との関連の下に、目標及び内容、育てようとする資質や能力及び態度、学習活動、指導方法や指導体制、学習の評価計画などを示す総合的な学習の時間の全体計画を作成するものとする」と一層の充実を求めている。

2 川崎市総合教育センターの研究から

平成 11 年度の川崎市総合教育センター研究紀要には、川崎市立高等学校で実践された複数教科による関連的・横断的授業という、「総合的な学習の時間」の理念に立った先行研究がまとめられている。平成 12 年度川崎市総合教育センターの「総合的な学習」研究会議報告書『総合的な学習の時間で培う力』の中では、「『総合的な学習の時間』を通して問題解決の能力を育て、自己の生き方への自覚が形成されていることが望まれている」とねらいを説明し、「問題解決の能力は、調べ方やまとめ方などの学習の進め方が身に付いており、さらに旺盛な学習意欲や探究心に支えられている時に、より豊かに育つと考え、『学び方やものの考え方』と『主体的・創造的な態度』を『問題解決の能力』を支える 2 本の柱として位置付けた。子どもたちは、『総合的な学習の時間』の学習の中で、繰り返しこれらの力や態度を育みつつ、次第に自己の生き方についても考えるようになり、『生きる力』を身に付けていく」と報告されている。

また平成 13 年度の共同研究校との指導主事研究・教育課程研究会議ではさらに「『総合的な学習の時間』で育成する資質・能力(平成 12 年度用いた「培う力」を資質・能力と表す)の中核となる『問題解決の能力』とそれを支える『学び方やものの考え方』『主体的・創造的な態度』の 3 本柱のそれぞれについて、その力の要素を検討し整理した。」の中で「問題解決の能力」の要素として課題を発見する力・観察力・構想力・情報活用力・思考力・判断力・表現力・自己評価力を挙げ、それらの要素が、学習過程の「課題を発見する」「課題を追究する」「まとめる」のどの部分において育つのかを整理している。「問題解決の能力」の要素に挙げられた自己評価力は、総合的な学習の時間の学習過程のどの場面においても登場している重要な能力である。



研究構想図

3 生徒の実態から

本研究会議では、初めに川崎市立高等学校の「総合的な学習の時間」の実践についての情報交換を行った。平成15年度、各学校では学校の実態に合わせた体験活動や課題研究を行い、主体的な学びを通して生徒の資質・能力の向上を図る活動が展開された。生徒は、テーマを決めて地域研究や上級学校を調べたり、将来の進路を考えて、講演会で卒業生から職業を選ぶ経緯や仕事についての考えを直接聞いたり、「事業所見学・体験」などを通して仕事の意義や生きがいを体験的に学んだりした。この一連の体験学習の成果は、発表会や文化祭で新聞などにまとめられた。できあがった作品の学習感想には、努力や工夫に比べて「高い自己評価」をしたり、逆に「厳しい自己評価」をしたりしていることがあった。このような実態を省みて、総合的な学習の時間において生徒の様々な思いや考えを理解し、学習活動を振り返る自己評価の研究は意義があると考えた。そして、生徒自身が自らの学習過程を見つめ、成長するための振り返りの方策として、自己評価力を伸ばすための「ワークシート(自己評価カード)」の作成と利用の研究を行うこととし、次のような主題を設定した。

研究主題

総合的な学習の時間における自己評価力を伸ばすための
「ワークシート」の利用の研究

研究の内容

1 研究の仮説

主題設定の理由を受けて、研究の仮説を以下の通りにする。

総合的な学習の時間において、生徒自らが課題に即した今日の学習目標を設定し、その学習内容を振り返って次時の課題を設定するようなワークシートを利用することで、自己評価力が伸びる。

2 研究の方法

(1) 自己評価力の定義

生徒の自己評価力を見るときに、この生徒は「自己に厳しい自己評価を付けている」あるいは「自己に甘い評価を付けている」と感じることもある。それは、教師が生徒の日常の実態を知っているから判断できるのである。

レポートや発表会の際のアドバイスなどの意図的な働きかけによって、教師の評価と生徒の評価のズレが少なくなることがある。これは、生徒の自己評価力が向上した一つの現れではないかと話し合った。

総合的な学習の時間で、生徒は作業的・体験的活動の中で主体的に学び、自己実現をめざしている。本研究会議では、総合的な学習の時間の生徒の学習活動の充実を図り学習成果を上げるために、自己評価力に視点を当てようと考えた。

そして、本研究会議では自己評価力を「観点に照らして自己の現状を客観的に認識し判断して、自分に合った次の課題を見付けることができる力」と定義した。

(2) ワークシートの作成とねらい

ワークシートの作成

ワークシートには、「単元名」「単元目標」「単元の自己目標」「時程と内容」「評価の観点」「評価」「評価の理由」「今日の目標」「全体を通して(単元を振り返って)」などの欄を設けている。一般的なワークシートと違い、学習者に自らの学習を振り返り、自己評価させるための工夫がある。特長として「単元の自己目標」「評価の理由」「全体を通して(単元を振り返って)」などの欄は、文章記述にしている。また、「評価」欄は選択肢としている。

「 単 元 名 」			
単元目標	1 2	について考える。 を学ぶ。	
単元の自己目標			
時程と内容	評 価 の 観 点	評 価 4 十分できた 3 わりとできた 2 あまりできなかった 1 全くできなかった	評 価 の 理 由
第1時	(今日の目標) 1 調べようとした。 2 決定しようとした。	4・3・2・1 4・3・2・1	。
第2時	(今日の目標) 1 収集することができた。 2 調べようとした。	4・3・2・1 4・3・2・1	。
第3時	(今日の目標) 1 整理した。 2 工夫した。	4・3・2・1 4・3・2・1	。
第4時	(今日の目標) 1 説明できた。 2 人に知らせようとした。	4・3・2・1 4・3・2・1	。
単元を振り返って			

図1 ワークシート例

ワークシートのねらい

生徒は授業の始めに今日の目標を記入し、授業の終了前の5分程度で今日の自己評価をワークシートに記述する。これには、評価の理由を問うことで状況を正しく認識させ、客観性を育てるねらいがある。また、ワークシートで、前の授業に書いた自己評価を意識させて、次時の学習のめあてとしてとらえさせることができる。

このことから、ワークシートは自己評価力を伸ばす手立てとして有効であると考えられる。繰り返し今日の目標を具体的に記述することによって、「何がどうだったから今度はどうするのか」という目標意識・課題意識をもたせることができる。この振り返りを通して自己の現状を客観的に認識し、自分に合った次の課題を見付けるといった自己評価力の向上につなげる。

(3) 自己評価力の分析

自己評価力の分析は、着目生徒のワークシート(評価の理由、単元の振り返り)の記述を読んで行う。

(4) 検証の方法

本研究会議では、ワークシートに書かれた記述内容から、生徒一人一人の自己評価力を見取るため

に、「自己評価力の見取りの規準」を考えた。研究を進める中で、先行研究の大西智子¹⁾の論文があることがわかり、その論文を先行研究と位置付けた。この論文にはグリーンウェイとクロウザーの『論文』からとして、次のような自己評価力の発達段階が紹介されている

自己評価力発達段階

- 知識段階 わたしは何々したとか、何がおもしろかったなどと言いながら、過去の出来事を思い出することができる。
- 分析 / 理解段階 どうしてそのようになったのか、うまくいったのはなぜか、どこがむずかしかったか、などについて述べることができる。
- 評価の段階 学習状況について判断したり、何を学習したか何を達成したかを述べることができる。
- 総合の段階 何を学習したかについての考察を、より全体的で長期の学習の文脈の中に位置づけることができ、将来の学習の目標を設定できる。

また、大西智子自身もグリーンウェイとクロウザーの自己評価力の発達段階を基に次の規準を作成している。

自己評価力の発達段階

- 段階 活動の感想のみ書いている。
- 段階 活動を通して分かったこと、まだ解決できていないことなどが書けている。
- 段階 活動を通して分かったこと、まだ解決できていないことなどが書けており、目標に対してどのくらい達成できたのかが書けている。
- 段階 活動を通して分かったこと、まだ解決できていないことなどが書けており、目標に対してどのくらい達成できたのかが書けている。さらに、達成できたことやまだ解決できていないことをもとに、今後の見通しをもち、次の目標が書けている。

本研究会議としては比較・検討し、より実践的で学校の実態に合わせ、次の評価規準を作成した。

自己評価力の見取りの規準

- 「1」のレベルは、記述なし。
- 「2」のレベルは、漠然とした記述のみがある。例えば、単語や感想のみの記述がある。
- 「3」のレベルは、理由・根拠・改善の記述がある。
- 「4」のレベルは、現状を認識して次はどうするという課題設定がある。

【解説】

- 「1」のレベルは、記述がないということである。教育的には、考えがまとまらず未整理で、時間があれば書けるということを含んでいる。
- 「2」のレベルは、過去の単なる振り返りがこれに当たる。具体的には、「大変だった」「努力した」などの過去の単純な感想の記述。また、ひとことや単語だけの記述が該当する。
- 「3」のレベルは、「だから～である」「なぜなら～」という根拠や理由、改善点の内容の記述があるもの。
- 「4」のレベルは、自分に合ったその先の課題や対処の内容があるもの。

¹⁾大西智子「生徒の自己評価力を高める方策についての研究」、平成15年度香川県教育センター

3 授業実践

(1) A高校の実践

A高校では1年生『環境と資源』の授業実践を行った。生徒は毎時間「今日の学習目標」を書き、自己評価をもとに「評価の理由」を記述した。教師は生徒の記述を読み、見取りの規準を用いて自己評価力の伸びを検討した。

学習指導案

ア 単元名「環境と資源」

イ 単元目標

- ・自然界における物質循環を知り、物質循環と特に人間の生活とのかかわりについて考える。
- ・資源を利用することで文明を発展させてきたことを知り、資源の利用方法と有限性を考える。
- ・身の回りの多くの情報の中から必要な情報を取捨選択し、活用できる能力を身に付ける。

ウ 指導計画

時間	項目	ねらい	学習の流れ	評価の観点と方法	留意点
1	テーマ設定	・物質循環や資源の利用法について興味・関心及び、それを調査し確かめようとする意欲をもつことができる。	・教科書を基に、自然界における物質循環のありようについて学習し、人間がそれらの物質を利用して、今日の文明を築いてきたことを知る。 ・上記について、よりよく知るために調査活動を行うことを知る。 ・班ごとに希望の選択課題を決める。	関心1.2 (ワークシート)	・新しい素材について関心をもたせる。 ・選択課題が重ならないように調整する。
2 3	調査活動	・文献の調べ方を習得するとともに、積極的に資料を活用しようとする意欲をもつことができる。	・文献の探し方について学習し、図書館で班ごとに課題についての調査活動を行う。 ・インターネットで検索する方法を学習する。	関心1.2 (ワークシート) 技能1 (ワークシート)	・図書館やインターネットの利用マナーについて説明する。 ・他のクラスも使用するので、資料の貸出しは行わない。
4	レポート作成	・調査内容をレポートにまとめる作業を通し、わかりやすく表現することができる。	・班ごとに調査内容についての情報交換を行う ・情報の取捨選択を行い、最も伝えたい内容について検討する。 ・読みやすさ、わかりやすさに配慮し、レポートを作成する。	関心3.4 (ワークシート) 思考1.2 (レポート) 技能1.2 (レポート)	・発表の準備も併せて行う。
5	調査報告	・調査報告を行うことを通し、よりわかりやすく相手に伝えることができる。	・各調査班1人ずつから構成される班をつくる。 ・1人ずつ調査内容について班内で発表を行う。 ・発表後、質疑応答を行う。 ・教師のまとめの話を聞く。	関心3.4 (ワークシート) 思考2 (レポート) 知識1.2.3 (レポート)	・発表時間については十分注意させる。 ・発表内容や発表態度などについて相互評価を行う。

エ 評価の観点

<関心・意欲・態度>

- 1 日常生活や社会生活に見られる資源や素材に関心を持ち、その実態を積極的に調べようとする。
- 2 身近な環境の破壊や汚染の問題に関心を持ち、その実態を積極的に調べようとする。
- 3 人間と自然のかかわり方を真剣に考え、自分自身の生活を見直そうとする。
- 4 自分の調べた事柄や考えを積極的に他人に知らせようとする。
- 5 他人の調査報告に対して熱心に耳を傾け、理解しようとする。

<科学的思考>

- 1 調査によって得られたデータから、現状の分析や将来の予測をすることができる。
- 2 科学技術の発達に伴って生じる環境問題や問題の発生する原因について、論理的に自身の考

えを説明することができる。

<観察実験調査の技能>

- 1 効率よく文献やインターネットなどから情報を収集することができる。
- 2 調査で得たデータを他人にわかりやすく表現することができる。

<知識・理解>

- 1 資料や素材について説明することができる。
- 3 自然環境の働きや浄化作用について説明することができる。

オ 支援体制

生徒に学習作業の流れがわかる「手引き」を配付して、事前や実施中に質問・相談にのり、そのつど指導を行う。図書館の協力を得て、調べ方に関するものや資料情報として必要なものを用意する。

A高校のワークシート

A高校の生徒の自己評価と教師の見た自己評価力

単元目標	1 自然界の物質について知り、物質循環と人間の生活とのかかわりについて考える。 2 資源を利用することで文明を発展させてきたことを知り、資源の利用方法と有限性について考える。 3 身の回りの多くの情報を取捨選択し、活用できる能力を身に付ける。		
単元の自己目標			
時程と内容	評価の観点	評価 4 十分できた 3 わりとできた 2 あまりできなかった 1 全くできなかった	評価の理由
第1時 テーマ 設定	(今日の目標) 1 身の回りの資源や素材に関心をもち、積極的に調べようとした。 2 環境の破壊や汚染に関心をもち、積極的に調べようとした。 3 テーマを積極的に決定しようとした。	4・3・2・1 4・3・2・1 4・3・2・1	
第2時 調査活動 1	(今日の目標の記入) 1 身の回りの資源や素材に関心をもち、積極的に調べようとした。 2 環境の破壊や汚染に関心をもち、積極的に調べようとした。 3 効率よく資料やインターネットから情報を収集することができた。	4・3・2・1 4・3・2・1 4・3・2・1	
第3時 調査活動 2	(今日の目標) 1 身の回りの資源や素材に関心をもち、積極的に調べようとした。 2 身近な環境の破壊や汚染に関心をもち、積極的に調べようとした。 3 効率よく資料やインターネットから情報を収集することができた。	4・3・2・1 4・3・2・1 4・3・2・1	
第4時 レポート 作成	(今日の目標) 1 人間と自然のかかわりについて考え自分の生活を見直そうとした。 2 自分の調べたことや考えを積極的に他人に知らせようとした。 3 調査したデータから現状の分析や将来の予測をすることができた。 4 環境問題とその原因、資源等について自分の考えを説明できた。 5 調査したデータを他人にわかりやすく説明できた。	4・3・2・1 4・3・2・1 4・3・2・1 4・3・2・1 4・3・2・1	
第5時 調査報告	(今日の目標) 1 自分の調べたことや考えを積極的に他人に知らせようとした。 2 他人の調査報告に熱心に耳を傾け、理解しようとした。 3 環境問題とその原因、資源等について自分の考えを説明できた。 4 調査したデータを他人にわかりやすく説明できた。	4・3・2・1 4・3・2・1 4・3・2・1 4・3・2・1	
<全体を通して、あなたが一番頑張ったことは何ですか。>			
<もう少し頑張ればよかった点は何ですか。>			

ワークシートの「自己評価」の下の数値は、「評価の観点」から生徒が自ら判断した「自己評価の平

均」である。「自己評価の平均」の下に並んでいる数値は、観点に照らした判断で、生徒のそれぞれの4段階評価である。内容によって観点の項目の数が変わっている。

「教師の見取り評価」の下の数値は、「見取り評価の平均」である。「見取り評価の平均」の下にある数値は、「自己評価力の見取る規準」によって生徒の自己評価力を4段階評価で見取ったものである。なお、文章記述のところのアンダーラインは、見取りの着眼点である。

ア <生徒Dのワークシートの事例>

単元の自己目標：文明が発展してきたことを知る。資源について考えてみる。			
名称	自己評価	教師の見取り評価	
評価の平均	2.8	3.4	今日の学習目標 評価の理由を書こう
テーマ設定	222	3	テーマの中のものはほとんど知らない <u>ので</u> わけがわかりません。
調査活動1	443	4	今日はインターネットで調べてダイオキシンは恐ろしいものだと知った。もっと詳しく知り <u>たい</u> 。
調査活動2	444	4	<u>今日の目標「ダイオキシンをもっと詳しく知る。」(効率よく)</u> 今日はスラスラと調べることができ、理解をしてきた。次回はもっと内容をまとめてレポートに移れるように頑張りたい。
レポート作成	22322	3	<u>今日の目標「資料が集まったので資料にまとめる。」</u> なかなか資料がまとまらず、レポートに書けずじまいだった。人に伝えるのはむずかしい <u>な</u> と思った。
調査報告	3323	3	<u>今日の目標「上手くわかりやすく大きな声で発表する。他の人の発表をしっかりと聞く。」</u> 自分が言っている事が他人に上手く伝わっているかどうか分からないからなんとも言えないけれど、緊張してかたことになってしまった。
<p><全体を通して<あなたが一番頑張ったことは何ですか。> たくさんの資料を見て自分は調べているものに対して、理解できたけれど、そこから、重点をしぼってレポート用紙にまとめるのが大変だったし、人にどう言えば伝えられるかと感想に書くのがむずかしかった。 <もう少し頑張れば良かった点はなんですか。> レポートでもっと見やすく、わかりやすく書けたのではないかなと思った。</p>			

【生徒Dへの支援】

資料の探し方がわからず、どうしたらよいか行き詰ってしまう傾向にある生徒だったので、効率のよい資料検索を中心に発表の仕方についても支援を行った。

【生徒Dのワークシートの分析】

教師の見取りで「テーマ設定」時の記述「知らないので」と、理由が書かれているところから見取りの規準「3」とした。「レポート作成」時の「書けずじまい」「人に伝えるのはむずかしい」と「調査報告」時の「他人に上手く伝わっているか分からない」から、見取りの規準「3」とした。「調査活動1」は「ダイオキシンは恐ろしいものだと知った。もっと詳しく知りたい。」と書いている。記述中の「もっと詳しく知りたい」に着目し、見取りの規準「4」とした。「調査活動2」は「次回はもっと内容をまとめてレポートに移れるように頑張りたい」と現状を認識し次はどうするということから、見取りの規準「4」とした。

イ <生徒Eのワークシートの事例>

単元の自己目標：自然にはまだまだ知らない面白いことがあると思うので調べる。また、自然に人の手を加えることでどのような事が起きるのか知りたい。				
名称	自己評価	教師の見取り評価	今日の学習目標	評価の理由を書こう
評価の平均	3.1	3.4		
テーマ設定	333	3	カーボンといえばスポーツにも通じる。色々期待あり！	
調査活動1	412	3	もっともなサイトを見つかる事ができたので、次回に期待。気になった物質、ヘルスカーボン。	
調査活動2	424	3	今日の目標「わかりやすくまとめやすい資料を見つける。」 今日はカーボンと名のつく物について多くの情報を得ることができました。「2」についてはカーボンからの被害が出ないと言う結果です。	
レポート作成	34243	4	今日の目標「わかりやすいレポートを時間内に作成する。」 わかりやすいようにただただ文をまとめるだけでなく、人と意見を交わしわかりやすいように、レポート作成をすすめた。	
調査報告	3433	4	今日の目標「言いたくて伝えたい事をしっかりと伝えます。」 字がきたなかったのもっとキレイに書いておくべきでした。皆に説明も伝える事を伝えられたので上出来です。	
<p><全体を通してあなたが一番頑張ったことは何ですか。> この図書館には基礎となるカーボンファイバーの資料が1冊しかなかったため、すべての情報とインターネットで拾うほかありませんでした。私は2週間パソコンにむかって、カーボンと名のつくものを、一つ一つ調べていました。カーボンという「かぶ」やなんやらが多く、カーボンファイバーの説明を導き出すのにとっても私は頑張りました。それをちゃんとみんながまとめてくれたので良かったです。</p> <p><もう少し頑張れば良かった点はなんですか。> レポートをしっかりとやれたかったです。字もキタないし、図も少ないのでとてもやり直したかったです。</p>				

【生徒Eへの支援】

レポート作成は慣れていて上手だが、発表することに対して苦手意識をもっている生徒なので、わかりやすい発表の方法について支援を行った。

【生徒Eのワークシートの分析】

「調査活動1」の第2項目では自己評価「1」と、「調査活動2」の第2項目では自己評価「2」としている。これは自己評価が低いのではなく、カーボンが環境破壊や汚染がないという理由から判断して、評価が低くなってしまっていると考えられる。「調査活動1」と「調査活動2」の教師の見取りでは、「見つける事ができたので」「多く情報を得ることができました」と理由を挙げて評価をしていることから見取りの規準「3」とした。「レポート作成」では、「ただただ文をまとめるだけでなく、人と意見を交わし」の部分で、その先の課題を見つけて対処しようとしているところから、見取りの規準「4」とした。「調査報告」では、「もっとキレイに」と、現状をとらえて自力でその先を考えたことが記されていることから見取りの規準「4」とした。

(2) B高校の実践

B高校では3年生を対象に、『ハードウェア・ソフトウェア演習』の授業実践を行った。教師は生徒が単元ごとに書いた記述を比較し、自己評価力の伸びを検討した。また、教師はワークシートに自己評価力の向上を促すコメントを適宜書き入れた。生徒は、「パソコンを組み立てる」と「ネットワーク構築」の単元の最初・中間・まとめの授業で、「今日の目標」を記入した。また、自分たちで組み立てたパソコンで、班ごとにホームページを作成する。パソコンをLANに接続する。という作業の後、お互いのホームページにアクセスして、「どこが良かったのか・どこが工夫されていたのか」という観点で、相互評価を行うという活動も加えた。

B高校のワークシート

2学期の単元目標 1. ホームページビルダーを利用して、ホームページを作成する。 2. ネットワーク構築を行う。		単元の自己目標	
評価観点 (例)	評価	評価の理由	
1. 各班のHPにアクセスできたか 技能 知識・理解	4 3 2 1		
2. LANの仕組みを理解できたか 技能 知識・理解	4 3 2 1		
3. ネットワークにそった作業ができたか 関心・意欲・態度	4 3 2 1		
授業の感想	次回の目標	コメント(教師)	
班のホームページについて	5 4 3 2 1	感想	
ネットワーク構築を振り返って			
単元のコメント			

B高校の生徒の自己評価と教師の見た自己評価力

ワークシートの「1学期を振り返って」の欄と2学期の「ネットワーク構築を振り返って」の記述を比較して、生徒の自己評価力を見取る。

生徒Fのワークシート

2学期の単元目標 1. ホームページビルダーを利用し、各班のホームページを作成する 2. ネットワーク構築をおこなう 3. 構築されたネットワークの有効活用方法を研究する。		3年	組	番氏名	班
日付	評価項目	※評価	評価の理由		
	1. 各班のHPにアクセスできたか ③技能 ④知識・理解	4 3 2 1	4 5 班のHPが見えた。おもしろい。		
	2. LANの仕組みを理解したか ③技能 ④知識・理解	4 3 2 1	調べたことについて理解した。		
	3. ネットワークにそった作業ができたか ①関心・意欲・態度	4 3 2 1	ネットワークに反することはなかった。		
授業の感想 見た班のHPは7つのしか、た		次回の目標	コメント		
		コメントといた。評価を書く	楽しいネットワークの活用方法を研究する		
ネットワーク構築を振り返って(「LAN」・「IPアドレス」の語句を必ず入れて記入してください。)					
<p>家庭用パソコンがなく、お父さんによくわからず、何をしようか正解わからなかつたけど、おもしろい、説明書を見ながらやっとLANの構築、OSの設定、IPアドレス、をすることができた。こういうこと初めておもしろいことがあった。この授業は後に役に立つと思う。そしてこの授業でおもしろいことがあった。</p>					
<p>コメント 2学期は、ネットに興味があり、自分でホームページを作った。でも、大型のコンピュータはなかった。家にパソコンがないので、今度も学校に居る時に利用できるようにしたい。学校で利用できるようにしたい。少しずつでも、勉強していき、役に立つようになると思う。</p>					

ア <生徒Fのワークシートの事例>

1学期の単元目標 「パソコン」を組み立てる	2学期の単元目標 「ホームページを作成しネットワーク構築を行う」	HP(ホームページ)の作品(成果物)を通した評価
1学期を振り返って	ネットワーク構築を振り返って	相互評価(5点満点)
<p>俺は日頃からパソコンにふれるわけではないので、はじめは何を言っているんだって感じだったけれど、わかっていないなりに楽しくできました。やっていくうちに少しはわかってきた。組み立ては楽しかった。きちんと組立てはできたと思うのだが、OSのインストールができず、なやんだ。最終的に先生に助けられた。そのあとホームページを作ろうとしてもマウスが動かさず苦労している。</p> <p>2学期の目標 今作っているホームページを完成させたい。サウンドカードを使えるようにしたい。</p>	<p>家にパソコンがなく、君みたいによくわからず、何をしたいかが正直わからなかったけれど、君のを見たり、説明書を見たりしながらやっと「LANの構築」「OSの設定」「IPアドレス」をすることができた。こういうことをやったのは初めてですこしわかったが、楽しくできた。この授業は後に役立つと思う。そしてこの授業で君のすごさがまたわかったと思う。</p>	<p>2班3点 消えてしまったのがもったいなかったと思う。急だったからと思うがさびしかった。</p> <p>4班4点 キレイなホームページだと思う。とても見やすいHPだった。それぞれの自己紹介はおもしろかった。絵も個性が出ていた。戻るボタンがあって進みやすかった。</p> <p>5班4点 楽しさ、おもしろさ、満点のいいホームページだと思う。かくれリンクをさがすのが大変な感じはするが発想がおもしろい。</p>

【生徒Fへの支援】

授業終了時のコメント

楽しいことの有効活用を考えていきましょう。

単元終了時のコメント

コンピュータに興味があって自宅にあれば自分で本を読みながら色々できます。大型のコンピュータを考えたら家には置くことができず、会社や学校にいる時しか利用できません。家になければ学校で利用できる時に利用して少しずつでもよいから研究してください。Fさんにできない訳はないです。

【教師による生徒Fの自己評価力の見取り】

1学期「2」から2学期「4」に変化した。

【生徒Fのワークシートの分析】

1学期の記述の部分では、「楽しくできました」「少しはわかってきた」「楽しかった」と活動の抽象的な記述がされている。「どんな点が」という部分が抜け、本人だけにしかわからない振り返りになっている。「マウスが動かさず苦労している」の部分では、「どんな点が」が記入されているが、全体としては単純な感想が記述されているので、見取りの規準では「2」となる。

2学期の途中では教師のコメントが入る。2学期になると、「家にパソコンがなく」という事実を挙げ、「君みたいによくわからず」と、比較判断した振り返りがされるようになっている。さらに、「君のを見たり」「説明書を見ながら」と、具体的な説明をして、「LAN」「OS」「IPアドレス」で「することができた」と因果関係のある振り返りがされている。そして、「この授業は後に役立つと思う」の部分では、今後の見通しの中で今回の授業を価値付けている振り返りが行われている。このことから、今後の見通しをもつ見取りの規準「4」とした。

イ <生徒Gのワークシートの事例>

1学期の単元目標 「パソコン」を組み立てる	2学期の単元目標 「ホームページを作成しネットワーク構築を行う」	HP(ホームページ)の作品(成果物)を通した評価
1学期を振り返って	ネットワーク構築を振り返って	相互評価(5点満点)
<p>パソコンを組み立ててみて、知らなかったことをいろいろと知ることができた。CPUはただ付けば動くと思っていたけど、その設定もしなきゃいけないとは思わなかった。色々難しかったのもあったけれど楽しかった。サウンドカードをつけたけど、それを使えるようにできなくて残念だった。ホームページ作成は、色々できて楽しかった。</p> <p>2学期の目標 いいホームページを作りたい。マウスを動かしたい。</p>	<p>今までHPを作って、パソコンをLANケーブルを使ってつないだけど、今まではLANケーブルをつなぐだけでイントラネットはできると思っていた。でも、つなぐには、IPアドレスの設定をしなければいけないのを初めて知った。IPアドレスにも決まりみたいなものがあったので驚いた。LANでつなぐのに設定するのが、けっこうあったので初めて知ったものばかりだった。でも、ふだんできない事ができて勉強になった。家でPCとPCをつなぐときにはすごく役立つそう。色々トラブルもあったけど楽しかったしできて良かった。</p>	<p>2班2点 完成していないため、マイナス。絵がないのでちょっとなさけないというかつまらない。</p> <p>3班3点 内容がないから、ちょっと微妙。始めのページ以外に「始めのページにもどる」ボタンがないのは、マイナス。</p> <p>5班3点 どこにいったらいいかわかりにくい。リンクができてない。うちのところから飛べない。</p>

【生徒Gへの支援】

授業終了時のコメント

ただつないだだけでは見られません。IPアドレスの設定、プロトコルのしくみを理解することが大切です。

単元終了時のコメント

IPアドレスの規則を考えた人の偉大さが感じられたようですね。電気と違って電気信号のやりとりは簡単にはいきません。今回のLANの基礎・基本を学べてよかったですね。トラブルがなくうまくいくと、成果はあまりないと思います。トラブルが発生した時、状況を判断しどう対処するかをこれからも学んでほしいと思います。

【教師による生徒Gの自己評価力の見取り】

1学期「2」、2学期「2」と変化はなかった。

【生徒Gのワークシートの分析】

1学期では、「知らなかったことをいろいろと知ることができた」「色々難しかったのもあったけれど楽しかった」「ホームページ作成は、色々できて楽しかった」と見取りの規準「2」の振り返りである。2学期も具体的な説明と、事実に基づく感想「でも、つなぐには、IPアドレスの設定をしなければいけないのを初めて知った」が、記述されている。「家でPCとPCをつなぐときにはすごく役立つそう」と、価値を見いだしているが「色々トラブルもあったけど楽しかったしできてよかった」と単純な感想を述べているので、見取りの規準「2」となる。

(3) C高校の実践

C高校では、2年生の『総合的な学習の時間』において授業実践を行った。1年生の時から自己評価カードを使って、活動の態度面の自己評価や活動を通して学んだこと、授業全体を振り返っての感想・意見・反省などについて、学びを確かにする手だてを行ってきている。生徒は自己評価することについては、様々な形式のワークシートに記述してきている。支援については、全員の作業進捗を机間指導しながら見て相談にのり、そのつど指導を行った。

C高校のワークシート

単元目標:「沖縄修学旅行」のアルバムを作ることを通じて、学びを確かにし、後輩に自分の印象に残っているメッセージを伝える。		単元の自己目標	
時	日付	単元及び学習内容	具体的な学習内容(活動)
1		修学旅行のまとめ	A 写真を選び説明する
2		A テーマについてまとめる	B デザインを工夫する
3		B 学習活動を振り返っての反省	C わかりやすいコメントを記入する
4		C スケッチブックにまとめる	
5			
		今日の自分の取り組む課題を具体的に書こう	工夫したこと努力したことを書こう
評価の観点(項目)		評価	評価の理由
キレイにまとめて説明を書くときには具体的に書けるようにする		4 3 2 1	
次回の学習目標			
先生から			

C 高校の生徒の自己評価と教師の見た自己評価力

C 高校では、第1学年で行った「職業を知る」「上級学校を知る」と、第2学年で行った「沖縄修学旅行」など、三つの単元の「振り返って」の記述を比較して見取りを行った。

生徒の記述文は、C 高校で使った単元のまとめのワークシートから抜き出した。

ア <生徒Hのワークシートの事例>

1年次の1学期を振り返って	1年次の2学期を振り返って	2年次の2学期を振り返って
職業を知る	上級学校を知る	沖縄修学旅行について振り返る
私は特に、将来やりたい事がなかったから、まだ興味ある公務員の教師について調べてみました。資料集めは、インターネットを使っていっぱいプリントをしました。いっぱいプリントしたのはいいのだけど、それをまとめるのが、ちょっとむずかしかったです。でもなんとか、まとめることができました。発表の日は、好きな人同士でグループを作ったので、発表しやすかったです。自分が発表するときは、声をもうちょっと大きくして発表すればよかったです。みんなが発表しているときはちゃんと聞く事ができました。今回の職業調べで、自分が調べた職業についてちょっといいなと思いました。みんなが調べていた職業も仕事内容などがわかりよかったです。	私は「上級学校を知る」で、大学の就職状況について調べました。いっぱい資料がある中、探したのが大変だったけど使えるなど思った所を抜き出し、レポートにまとめる事ができました。班ごとの発表では、大学の食堂について調べている班や美術大学について調べている班があり、自分が調べている事以外の話をいっぱい聞けて勉強になりました。代表の班が選ばれて学年の前で発表するのでも、他のルームの人の発表を聞いてよかったです。私は大学の事を調べただけで、専門学校の事を調べている班があり、大学と専門学校の違いがわかりよかったです。 上級学校について調べるときに、テーマを決めるのに遅くなり、取り組むのが遅くなってしまった。もうちょっと早く取り組めたら良かった。進路講演会では、友達としゃべってしまって話をきちんと聞いていなかった。上級学校の発表会では、もっと大きな声で読めばよかった。	(事前学習) 沖縄のことを色々調べていくうちに、いままで知らなかった事とかを知ったから。しおり作りにしても、自分から授業に進んで取り組むことができた。(中間発表に向けたアルバム作り活動) いろんな写真を使って、見やすいように工夫して作る事ができたから、沖縄について深く知る事ができました。(一番勉強になったことは) 修学旅行に行く前に、沖縄戦のビデオをいくつか見たりできて良かった。実際に沖縄に行って、米軍基地がどのくらい広いのかも知る事ができて勉強になった。沖縄は海がきれいだけじゃなくて、沖縄戦でたくさんの人が亡くなっているのを忘れちゃいけないなと思いました。 修学旅行に行って、沖縄のことをいろいろ知って勉強になりました。

【生徒Hへの支援】

写真の配置や色づかいについてアドバイスする。

【教師による生徒Iの自己評価力の見取り】

「職業を知る」では「3」、「上級学校を知る」では「3」、「沖縄修学旅行について振り返る」では「4」となる。

【生徒Hのワークシートの分析】

「職業を知る」では、「発表の日は好きな人同士でグループを作ったので、発表しやすかったです。」

「発表するときは、声をもうちょっと大きくして発表すればよかったです。」から、見取りの規準「3」とした。「上級学校を知る」では、「自分が調べている事以外の話をいっぱい聞いて勉強になりました。」
 「大学と専門学校の違いがわかりよかったです。」「もうちょっと早く取り組めたら良かった。」から、見取りの規準「3」とした。「修学旅行」では、「沖縄は海がきれいだけじゃなくて、沖縄戦でたくさんの方が亡くなっているのを忘れちゃいけないと思いました。」から、未来志向を読み取り、見取りの規準「4」となった。

イ <生徒Iのワークシートの事例>

1年次の1学期を振り返って	1年次の2学期を振り返って	2年次の1・2学期を振り返って
職業を知る	上級学校を知る	沖縄修学旅行について振り返る
<p>なりたい職業ではただなりたいたいで職業につくまでに<u>どんなことをするのか考えていなかった。</u>実際に職業のことを調べてみて慣れるまでに時間もかかるし本当に大変だと思った。資料をまとめるのにも大変でなかなか見つからなくどんなふう工夫すればいいか考えるのに時間がかかった。でも、発表ではけっこううまくいき、自分の職業についているんなことを調べることができとても勉強になりました。</p>	<p>私は「上級学校を知る」を選び、専門学校をのことを調べました。資料も少ない状況で専門学校について調べるのは大変だったけど、資料が見つかったから調べていくにつれて、自分の知らなかったことなどたくさんの情報を知ることができました。とても勉強になった授業でした。その中で私が一番驚いたことは年々と高校から専門学校の進学率が上がっていたことに驚きました。ほかにたくさんあります。最後はクラスで発表し他のグループの発表でもとてもためになることばかりでした。学年では他のルームの発表も聞けて良かったです。</p> <p>活動内容では一番反省していることは、進路講演会について話を聞いていてその内容がむずかしく自分でも結構落ち着きがなかったような気がします。<u>これからは自分の将来のことを真剣に考えて取り組んでいきたいと思</u>います。</p>	<p>(事前学習) 沖縄のことに関してたくさん学べたし沖縄のことをたくさん知ることができました! (中間発表にむけたアルバム作り活動) 作るのに時間がかかったけど、自分なりに色づかいなどを工夫して作ることができました。 (一番勉強になったことは) 沖縄ではいろんなたくさんを学び勉強になりました。<u>中でも、一番勉強になったことは、沖縄の戦争のことについてです。</u>美術館に行ってみて、あの絵を見たたん、戦争というものは本当に恐ろしいもので、残酷だと思いました。戦争の絵であんなにリアルな絵を見たのは始めてで本当にびっくりしました。ほかに、悲しいことだけではなく沖縄の文化のこともたくさん学ぶことができました。本当にいろんなことが勉強になり沖縄に行ってよかったですと思いました。</p>

【生徒Iへの支援】

活動を通して学んだことや取り組みの態度面を自己評価してきた生徒たちである。自己評価することに慣れてきているので、学習内容を振り返る時に時間を意識して作業をするようにアドバイスをした。

【教師による生徒Iの自己評価力の見取り】

「職業を知る」では「2」、「上級学校を知る」では「4」、沖縄修学旅行では「3」となる。

【生徒Iのワークシートの分析】

「職業を知る」では、単純な感想であり、見取りの規準から「2」とした。「上級学校を知る」では、「とても勉強になった」「驚いた」と知的な感動を受けている。現状の認識の中から、「これからは自分の将来のことを真剣に考えて取り組んでいきたいと思います。」と、次はどうするという意識の高まりが記述されているので、見取りの規準から「4」とした。「修学旅行」の学習では、「中でも、一番勉強になったことは、沖縄の戦争のことについてです。」「悲しいことだけではなく沖縄の文化のこともたくさん学ぶことができました。」から、見取りの規準「3」とした。

4 授業実践の考察

(1) A高校

A高校では、生徒は今日の目標を毎時間書き、教師は評価の理由の記述から検証を行った。見取りの規準「4」レベルが確認されたが、それは毎日目標を書かせることによる繰り返しの効果と、よりよく相手に自分を伝えたいという意識の高まりによるものであると考えられる。

また、授業後のワークシートの分析が短時間で実施できたことから、今回用いた「見取りの規準」が、簡便性の点からも通常の授業で利用できることが確認された。

(2) B高校

B高校では、「1学期を振り返って」と2学期の「ネットワーク構築を振り返って」それぞれの記述を比較して、生徒の自己評価力を見取った。

生徒Fには「この授業は後に役に立つと思う」と記述があり、今後を見通した自己評価力の伸びがあると判断した。これは、「ネットワーク構築を振り返って」の単元で、「楽しいことの有効活用を考えていきましょう。」との教師のコメントが反映していると考えた。生徒に平凡な振り返りの感想ではなく、授業内容について視点を与えたり、ものの見方を気付かせたりすることをねらいとした教師のコメントが、自己評価力の向上に機能したことが考えられる。生徒の現状に合わせた、生徒に考えさせる教師のコメントが有効であったと考えられる。生徒Gは変容が見られなかった。コメントに現状を考えて問題意識をもたせるための視点が足りなかったと考えられる。

(3) C高校

C高校では、単元ごとに書いたワークシートを使った。三つの単元の「振り返って」の記述をもとに検証した。

生徒Hは、「職業を知る」「上級学校を知る」では見取りの規準「3」であったが、2年次の「沖縄修学旅行について振り返る」で、「沖縄は海がきれいだけじゃなくて、沖縄戦でたくさんの方が亡くなっているのを忘れちゃいけないなと思いました。」と現地でのことを思索し、これからどうしようという未来志向の決意が見え、見取りの規準「4」のレベルに伸びた。「多くの人の犠牲のもとに現在の沖縄の平和がある」という事前学習の高まりが現れた結果と考えられる。また、1年次から「振り返る活動」を継続して行ってきた中で学んできた、「自己評価の結果を次の学習で生かす」ことができていると考えられる。生徒Iは1年次「上級学校を知る」で、「これからは自分の将来のことを真剣に考えて取り組んでいきたいと思います。」から、見取りの規準の「4」レベルを確認した。生徒Iは、直面しなければならない自分の進路についての目的意識が、今いる自分のその先の課題意識につながったと考えられる。

研究のまとめ

1 研究を通して見えてきたこと

自己評価力を伸ばすためのワークシートを利用した効果として、生徒は毎時間「次時の学習目標」をワークシートに記入することによって、自己の現状を認識する機会が多くなり、学習の自己目標を決定していくという経験を積み重ねることができた。このことから、次のことが見えてきた。

継続的なワークシートによる学習の振り返りを通して、単なる過去の事実を述べるだけでなく、「次はどうする」というこれから先を見据えたレベルに向上することができた。

適切な教師のコメントの支援が、自己評価力の向上の有効な要因となることがわかった。生徒とコミュニケーションを図り、生徒の現状にあった支援の重要性に改めて気付かされた。

このことから、生徒がワークシートに次時の課題を設定し記述する方策は、生徒の自己評価力を伸

ばすための一方策として有効であることがわかった。

2 今後の課題

次のことが課題として残されている。

自己評価力の「伸び」については、一つ方法として4段階の規準を考えて、それに当てはめて生徒の変容を見ることにした。しかし、生徒を継続的に見ていかなければとらえられない「確かさ」や「定着」については、見届けることができなかった。

自己評価力の変容を見取るための一つの方法として4段階の規準を考えたが、規準の妥当性や客観性など、また、具体的な表れについては今後さらに検討していかなければならないと考える。

生徒への変容を促すような的確なコメントの要素、またコメントを書く力を付けるにはどうすればよいか考えていきたい。

最後に、研究を進めるにあたり、適切なご指導ご助言をいただきました工藤文三先生、また研究にご支援ご協力くださいました校長先生はじめ学校職員の皆様に、心より感謝申し上げます。

【参考文献】

- | | |
|---------------------------------------|-------|
| 安彦忠彦編著『自己評価能力を育てる授業』明治図書 | 1997年 |
| 『高等学校学習指導要領解説 - 総則編 - 』文部省 | 1999年 |
| 工藤文三編著『高等学校「総合的な学習」の運営と実践事例集』学事出版 | 2001年 |
| 児島邦宏編著『総合的な学習の時間評価の工夫と実際』教育出版 | 2002年 |
| 佐藤 真編著『総合的な学習を生かす評価 - 中学校 - 』ぎょうせい | 2002年 |
| 古川 治編著『自己評価活動が学校を変える』明治図書 | 2002年 |
| 小島 宏編著『学力を高める学習評価の進め方』明治図書 | 2003年 |
| 国立教育政策研究所『総合的な学習の時間の授業と評価の工夫』 | 2003年 |
| 『高等学校学習指導要領』(改訂版) 文部科学省 | 2004年 |
| 国立教育政策研究所『学習評価の工夫改善に関する調査研究』 | 2004年 |
| 梶田叡一代表『小学校中学校「新しい通知表」の工夫』小学館 | 2004年 |
| 大西智子著『生徒の自己評価力を高める方策についての研究』香川県教育センター | 2004年 |

【指導助言者】

- | | |
|---|-------|
| 国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部総括研究官
(川崎市総合教育センター専門員) | 工藤 文三 |
| 前川崎市立商業高等学校校長(川崎市総合教育センター教育相談員) | 渡邊 浩司 |
| 川崎市教育委員会学校教育部指導主事 | 松本 芳弘 |
| 川崎市総合教育センター指導主事 | 篠原 満 |